

早期発見・早期治療が大切です!!

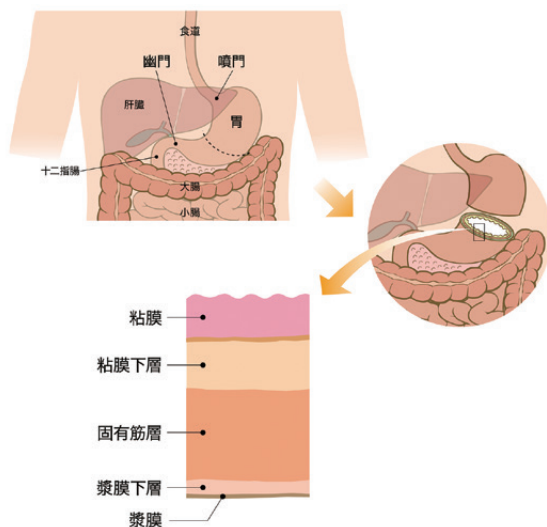
知っておこう「胃がん」について

Q：「胃がん」とはどんな病気ですか。

A： 胃は食道の次の臓器で、摂取した食物を一時的に蓄えて胃液や消化液と混ぜ合わせる役割を持っています。胃で消化された食物は、少しずつ小腸、大腸に送られます。

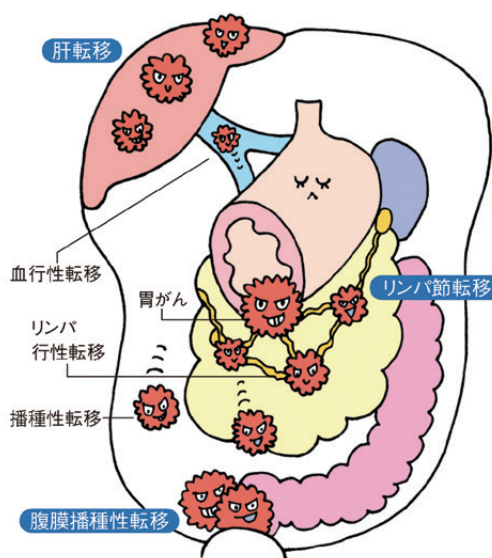
胃がんは胃の内側を覆う粘膜おのから発生します。粘膜または粘膜下層ねんまく かそうに留まっているものを早期がん、筋層きんそう以上に広がっているものを進行がんといいます。放置すると、リンパ液や血液の流れに乗って全身の臓器に転移したり、胃の壁を突き抜けて散らばったりします。

【胃の壁の構造】



画像：国立がん研究センターがん情報サービス

【胃がんの3大転移】



画像：胃がん治療ガイドラインの解説一般用

Q：「胃がん」はどんな人に多いですか。

A： 中高年以上の男性に発症することが多く、50歳頃から増加します。若年者では粘膜の下を這うように広がる、スキルス胃がんが知られています。

胃がんの発生には、ピロリ菌感染とたばこ(喫煙と受動喫煙)が大きく関わっています。



Q：「胃がん」の症状にはどのようなものがありますか。

A： 早い時期にはほとんど症状がなく、早期がんの多くは検診などで偶然に見つかります。進行してくると、みぞおちの痛み、胸やけ、吐き気などの症状が出てきます。がんからの出血により、赤黒い便で気づかれることもあります。食物のつかえや体重の減少なども要注意です。

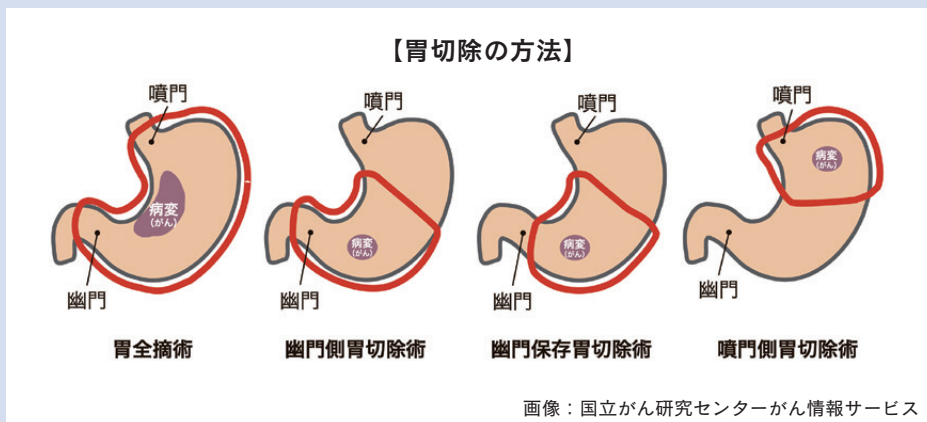


Q：「胃がん」の治療方法について教えてください。

A： 胃がんの治療法には、内視鏡治療、手術、薬物療法（抗がん剤）などがあります。
ごく早期のがんで、周囲のリンパ節への転移の可能性がない場合には、内視鏡による治療を行います。
進行がんでは、術後の再発予防に薬物療法を追加します。切除できないときや再発したときにも薬物療法を行い、症状によっては内視鏡を用いて狭い部分を広げたり、放射線を照射して出血を抑えたりします。

Q：「胃がん」の手術について教えてください。

A： 胃の出口側^{ゆうもんそく い せつじょ}2/3～3/4を切除する^{かくせい}幽門側胃切除術と、胃を全部摘出する胃全摘術が標準的な手術です。周囲のリンパ節を切除するリンパ節郭清を同時に行います。患者さんの全身状態やがんの進行度に応じて、切除する胃の範囲やリンパ節郭清の範囲を小さくします。
上腹部を大きく切開する手術が一般的でしたが、近年は^{ふくこうきょう}腹腔鏡を用いて小さな傷で行う病院も増えてきました。
胃を切除すると、これまで通りに食事を摂ることはできません。一度に食べる量を減らし、食べる回数を増やすなどの工夫が必要になります。ご家族さんのご協力が必須です。



Q：「胃がん」予防のためにできることはありますか。

A： 胃がんは早期に見つければ、そのほとんどが治ります。胃がん検診を定期的に受けることがもっとも大切です。
ピロリ菌感染が疑われたら除菌すること、喫煙者は禁煙すること、周囲に喫煙者がいるときは禁煙をお願いすることも、胃がんの予防につながります。



川崎先生から
ひとこと

消化器外科
部長

かわさき ひろし
川崎 普司

まずは、胃がん検診を受けましょう。要精査の通知があれば、早期にお近くの病院を受診し、精密検査をお勧めします。

